

## 日本環境安全事業(株)におけるPCB廃棄物処理事業の進捗状況

(平成19年8月現在)

事業	実施場所	事業対象地域	PCB分解量	処理の開始時期	備考
北九州	北九州市 若松区響町	中国、四国、九州、 沖縄17県	1.5ト/日 (第1期、第 2期合計)	平成16年12月	第2期施設 設計中
豊田	愛知県豊田 市細谷町	東海4県	1.6ト/日	平成17年9月	
東京	東京都江東 区青海地先	南関東1都3県	2.0ト/日	平成17年11月	
大阪	大阪市此花 区北港白津	近畿2府4県	2.0ト/日	平成18年10月	
北海道	北海道 室蘭市仲町	北海道、東北、 北関東、甲信越、 北陸1道15県	1.8ト/日	平成20年4月 (予定)	試運転中

### 北九州事業

平成13年11月1日	事業実施計画認可
平成14年4月2日	産業廃棄物処理施設設置許可
平成15年4月23日	起工式開催
〃	北九州市と環境保全協定を締結
平成16年6月	試運転開始(～16年11月)
同年12月10日	特別管理産業廃棄物処分業許可
同年12月18日	開業式開催、操業開始
平成18年11月29日	第2期施設設計業務発注(～19年11月予定)
平成19年3月8日	第2期施設施工業務発注(～21年2月予定)

### 豊田事業

平成14年10月24日	事業実施計画認可
平成16年3月3日	産業廃棄物処理施設設置許可
同年4月27日	起工式開催
〃	豊田市と環境保全協定を締結
平成17年5月	試運転開始(～17年8月)
同年8月15日	特別管理産業廃棄物処分業許可
同年8月29日	開業式開催
同年9月1日	操業開始
同年11月21日～	PCB漏洩事故のため操業停止
平成18年7月19日	操業再開
平成19年2月14日～	設備不具合により、運転を停止して補修工事等実施中
同年6月28日	運転再開

## 東京事業

平成 14 年 11 月 8 日	事業実施計画認可
平成 16 年 6 月 1 日	産業廃棄物処理施設設置許可
同年 8 月 3 日	起工式開催
平成 17 年 6 月	試運転開始（～17 年 10 月）
同年 7 月 15 日	東京都及び江東区と環境保全協定締結
同年 10 月 3 日	特別管理産業廃棄物処分業許可
同年 11 月 21 日	開業式開催、操業開始
平成 18 年 3 月 28 日～	微量 PCB 含有廃水流出事故のため操業停止
同年 5 月 25～26 日	微量 PCB 排気排出事故
同年 10 月 23 日	操業再開

## 大阪事業

平成 15 年 2 月 19 日	事業実施計画認可
平成 16 年 12 月 20 日	産業廃棄物処理施設設置許可
平成 17 年 3 月 9 日	起工式開催
平成 18 年 3 月	試運転開始（～18 年 7 月）
同年 8 月 31 日	特別管理産業廃棄物処分業許可
同年 10 月 3 日	操業開始
同年 10 月 12 日	開業式開催

## 北海道事業

平成 15 年 2 月 19 日	事業実施計画認可
平成 17 年 11 月 7 日	北海道及び室蘭市と環境保全協定締結
平成 18 年 2 月 7 日	廃棄物処理施設設置許可
同年 3 月 28 日	起工式開催
平成 19 年 3 月 22 日	試運転開始（～20 年 3 月予定）
平成 20 年 4 月	操業開始予定

平成19年6月27日

日本環境安全事業株式会社豊田事業所

所 長 吉 本 範 男(0565-25-3110)

日本環境安全事業株式会社(本 社)

事業部長 岩 田 元 一(03-5765-1907)

安全・技術 田 中 紀 彦(03-5765-0543)

開発課長

## 豊田PCB廃棄物処理施設の運転再開について

当事業所では、真空加熱分離エリアの熱交換器の破損による冷却水漏れなどの不具合が発生したことから、本年2月14日以降施設全体の運転を停止して、不具合設備の補修のみならず、類似設備等の点検や施設の安全性（流出防止機能の健全性）の確認を行ってまいりました。

このたび、それらの補修設備の安全性を確認し、引き続き実施した定期点検も終了したことから、6月28日（木）から施設の運転を再開いたします。

再開後は、これまで以上に安全に留意して処理を行ってまいります。

これまでご心配・ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げますとともに、当施設の事業につきまして引き続きご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

### 1．運転停止に至る経緯

昨年（平成18年）12月から本年（平成19年）2月にかけて3件の不具合（設備改良工事中における施設内からの上水の流出、真空加熱分離エリアにおける冷却水漏れ及びベンゼン濃度の管理目標値超過）を続出させてしまいました。

これらは、幸いPCBの漏洩には至らなかったものの、安全操業の観点から、平成19年2月14日以降、処理施設全体の運転を停止し、不具合設備の補修のみならず施設の安全性（流出防止機能の健全性）の確認を行いました。

### 2．設備の改修等

問題の設備等の直接的な対策（破損した熱交換器の交換、遮蔽フードSUS床の補修、漏洩検知器の追加設置、活性炭の交換等）にとどまらず、施設内のすべての熱交換器の安全性の確認、すべてのオイルパンや防油堤、漏洩検知器等の流出防止機能の健全性確認等を行うことによって施設の安全性を確認しました。

### 3．運転の再開

以上の対策を踏まえ、平成19年6月28日から処理施設の運転を再開します。再開当初は、運転停止前に受け入れをした処理途中のコンデンサ等から処理を開始いたしますので、新規搬入は7月中旬以降からを予定しています。

平成19年7月26日	
日本環境安全事業株式会社 北九州事業所	
所長	千葉 高生(TEL 093-752-1113)
安全対策室長	入江 敦史( 同上 )
日本環境安全事業株式会社 本社	
事業部長	齊藤 眞 (TEL 03-5765-1907)
事業部審議役	田中 紀彦(TEL 03-5765-0543)

### 北九州PCB廃棄物処理施設グローブボックス内での火花の発生について

7月25日20時55分頃、コンデンサの解体作業を行うグローブボックス内で、コンデンサ素子の切断中に切断面からの火花の発生を確認しました。このため直ちに機械を停止するとともに、素子には紙類も使用されていることを勘案し、念のためグローブの一部を切断し消火器を数秒間使用して火災発生を予防しました。また、速やかに北九州市の消防部局及び環境部局に連絡し、現場の確認を受けています。この事象による人的及び設備的被害はありません。また、排気中PCB濃度のモニタリング値に異常はなく、PCBの施設外への漏洩もありません。

なお、グローブボックス内の気圧は外部より低くボックス内の空気が外に出ないように管理されております。今回グローブを切断した際には外部との差圧が通常時の120パスカルから80パスカルまで縮小したものの、引き続き負圧が保たれたためボックス内の空気のボックス外への流出はありません。

火花の発生原因は、カッター刃の摩耗の進行により素子切断の際に強い抵抗があったこと等が考えられます。今後カッター刃の交換頻度を上げること等により再発を防止いたします。

再発防止措置後、安全を確認のうえグローブボックスでの作業を再開する予定です。

以上